

<p>課題名 回復期リハビリテーション病棟における身体的拘束を行わない選択をした看護の取り組み</p>
<p>(1) 新規に導入される医療 (2) 保険診療の対象とならない医療 (3) 患者に不利となる可能性のある医療 (4) その他</p>
<p>研究責任者 看護師長 小泉さおり、 発表者 看護部 5 病棟看護師 平塚 唯衣</p>
<p>概要</p> <p>I. 研究デザイン：症例検討</p> <p>II. 情報：既存で診療録のみ</p> <p>III. 症例対象者：患者</p> <p>IV. 症例概要：</p> <p>身体拘束ゼロへの手引きでは、「身体的拘束は人間擁護の観点から問題があるだけでなく、高齢者の QOL を根本から損なう危険性を有している」としている。そのため、看護師は早期の身体的拘束の解除に取り組む必要がある。</p> <p>今回、ベッドからの転倒・転落、チューブ類の自己抜去予防で身体的拘束を要した患者に対し、活動の改善を目指す回復期リハビリテーション病棟の視点から身体的拘束の必要性を考え、早期に身体的拘束を解除した事例を症例発表として報告する。</p> <p>V. 症例検討における倫理的配慮：</p> <p>①個人情報の保護：匿名化する</p> <p>②インフォームド・コンセントを受ける手続き等：電話で口頭にて患者に同意取得済</p>
<p>2025 年 6 月 3 日、看護記録に記録した</p> <p>③対象者の不利益・負担：無</p> <p>VI. データの保管方法と廃棄：研究責任者は、匿名化された情報は USB メモリ等に保存せず院内パソコン内で管理する。</p> <p>公表のため、院外から匿名化された情報を、USB メモリを使用して持ち出す場合は、アンチウイルス機能のついた院内指定のものを利用する。</p> <p>公表後、USB メモリ内の情報は削除し、紙媒体の情報はシュレッダーによる裁断を行う。</p> <p>VII. 添付資料：演題登録用の抄録</p> <p>VIII. 症例検討公表：2025 年 11 月 1 日～2 日 石川県地場産業振興センター本館 NPO 法人 日本リハビリテーション看護学会 第 37 回学術大会での公表を予定している</p>